

施策・基本事業評価表

優先度: 成果＝高。財源＝中。●かんきょう課 都市対策課

番号	施策名	施策の対象	施策の意図	区分	施策の成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
2-1	自然環境の保護と環境意識の醸成	市内の生命体	自然環境保護に関する取り組みや、地球・資源を大切にしている行動が定着化している。	成果	市内の自然環境について満足している市民の割合(%)	82.9	80.2	82.2	83.8	87.0	87.9	88.3	↑	87.6	88.5	88.3	↑	順調	前年度より0.2ポイント減となったが、平成28年度の目標達成にはあとわずかである。 ①広報ちくご等と連携し、身近な野生の生き物たちを紹介するパネル展示等をイベントで設け、自然環境保全をPRする。 ②エコネットちくごやその他の自然保護団体と連携し、自然体験講座を開催することで、自然環境の保全を啓発する。	
				成果	環境にやさしい生活をしている市民の割合(%)	20.0	23.1	22.0	22.4	23.4	21.2	24.0	↑	26.4	26.0	30.0	↑	順調	前年比4ポイントの増で大幅に上がったが、引き続き努力する必要がある。 実践している割合が高い項目は、⑩(75.5%)、②(71.8%)、③(71.1%)の順であり、分別収集、節電、節水は生活の中で定着しているようである。 低いのは⑳(2.3%)、⑨(4.2%)、⑲(12.8%)であり、⑨「環境家計簿」のように手間がかかるものや⑲「太陽光発電設備」のようにお金がかかるものはなかなか実践されない傾向にある。	
				成果	水質汚濁に関する環境基準をクリアした測定地点の割合(%) 山ノ井川 花宗川 松永川 倉目川 5～9月 BOD値:3mg/l以下 10～4月 BOD値:5mg/l以下	91.7 100.0 90.0 37.5	100.0 100.0 100.0 57.1	100.0 100.0 100.0 50.0	100.0 100.0 91.7 37.5	100.0 100.0 72.7 50.0	95.0 100.0 91.7 73.3	95.0 100.0 90.9 56.3	100.0 100.0 100.0 50.0	90.0 100.0 91.7 50.0	94.7 100.0 100.0 18.8	95.0 100.0 91.7 63.6	100.0 100.0 100.0 80.0	順調	倉目川以外の河川は、概ね目標値に近い水質を保持している。 倉目川については、昨年よりも水質の向上が見られるが、家庭から出る生活排水や事業所排水の流入が多いため、他の河川に比べて水質が悪いと思われる。	①事業所排水の適正化は、必要に応じて現地調査を行いながら、広報ちくご等を通じて啓発する。 ②家庭の生活排水対策として、合併処理浄化槽設置整備補助金事業のPRを行う。また、浄化槽の適正管理も広報等で啓発する。
				成果	大気汚染に関する環境基準をクリアした測定地点の割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100	100.0	100.0	100.0

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業の意図	区分	基本事業の成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	地球環境にやさしいライフスタイルの実践(もったいない運動の推進)	市民・事業所	市民や事業所などが、自然環境保全の重要性を理解し、省エネ等の環境にやさしい活動を実践している。	成果	環境にやさしい生活をしている市民割合(%) ※施策と同じ成果指標を設定	20.0	23.1	22.0	22.4	23.4	21.2	24.0	↑	26.4	26.0	30.0	↑	順調	前年比4ポイントの増で大幅に上がったが、引き続き努力していく必要がある。 実践している割合が高い項目は、⑩(75.5%)、②(71.8%)、③(71.1%)の順であり、分別収集、節電、節水は生活の中で定着しているようである。 低いのは⑳(2.3%)、⑨(4.2%)、⑲(12.8%)であり、⑨「環境家計簿」のように手間がかかるものや⑲「太陽光発電設備」のようにお金がかかるものはなかなか実践されない傾向にある。	①広報ちくご等を通じて身近な自然環境の大切さを啓発する。 ②エコネットちくご等と連携し、身近な野生の生き物たちを紹介するパネル展示等をイベントで設け、自然環境保全をPRする。 ③エコネットちくごやその他の自然保護団体と連携し、自然体験講座を開催することで、自然環境の保全を啓発する。 ④筑後市環境基本計画に基づき、行政、市民、市民団体、事業者の4者それぞれが環境に優しい活動を実践するよう、広報ちくごや商工会議所だよりを通じて啓発を行う。 ⑤環境講座、環境フェスタ等のイベントで、市民、事業者等に対し、地球温暖化防止及び3R推進の啓発に取り組む。 ⑥広報ちくご、出前講座等で環境に配慮した生活の必要性を啓発する。
				成果	環境保全のための取り組みを行っている事業所の割合(%)	16.1	23.2	21.1	21.5	23.1	26.4	31.8	25.0	21.9	59.7	49.6	70.0	不調	前年度より10.1ポイントと大幅に下がった。 回答の中で、「定期的実践している」「実施することがある」と回答した高い項目の順は、⑬(87.4%)、⑩(79.5%)、⑭(73.2%)、⑪(70.9%)であり、事業所として比較的容易に環境保全ができる内容のものであった。 しかし、逆に低かったのは⑲(7.8%)、⑳(10.2%)、㉑(12.6%)であった。⑲は車中心社会での取り組みの難しさ、⑳は時間や手間がかかる等の煩わしさ、㉑は投資が必要なための取り組みにくさがあるためだと思われる。	①筑後市環境基本計画に基づき、行政、市民、市民団体、事業者の4者それぞれが環境に優しい活動を実践するよう、広報ちくごや商工会議所だよりや機関会議の場を通じて事業所に対する環境保全への啓発を推進する。 ②事業系ごみ減量のため、ごみの大量排出事業所を洗い出し、事業所訪問による減量化の指導を実施する。 ③地域で活動している環境団体、あるいは事業所による環境活動やイベント情報などを広報ちくご、市ホームページで周知する。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業の意図	区分	基本事業の成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
02	河川等の環境保全	・市民 ・事業所 ・行政	市民や事業所などの意識が高まり、河川などの環境保全のための行動を起こしている。	成果	川と水を守る運動、矢部川美化ノーポイ運動参加者数(人)	13,200	13,330	13,742	14,153	12,000	13,014	12,759	13,800	11,492	11,170	11,939	13,000	順調	「川と水を守る運動」は78地域(行政区)すべて予定どおり実施された。課題である壮年・若年層参加者拡大に向け個別のチラシを作成し、行政区にて配布呼びかけをされたところ、参加者増の報告が複数あり一定の成果がみられた。 【内訳】 川と水を守る運動 11,533人 矢部川河川美化ノーポイ運動 406人	引き続き、壮年・若年層の参加拡大と定着化をめざし、活動の必要性を認識し参加意欲を高めるチラシの作成と配布方法を工夫する。
03	みどりの保全・育成	・市民	市民や事業所などの意識が高まり、みどりの保全や育成のための行動を起こしている。	成果	みどりの保全や育成のために何らかの活動をしている市民割合(%)	58.8	56.5	52.7	52.5	51.9	47.3	47.9	↑	50.8	48.9	51.5	↑	横ばい	公民館事業である花づくりは各集落で定着し、緑化推進事業における緑づくりでは、街頭募金や苗木の配布は、数百本の苗木が半日で配り終えるなど、市民の緑化に対する関心は決して低くはないと言える。しかし、活動面では概ね半数で推移しており、みどりを保全する意向はあるものの活動している市民は固定化し伸び悩んでいる。	筑後市緑づくり推進協議会や地域公民館活動による花づくり運動など、各種団体による緑化活動は活発に行われ、緑化推進事業における助成金申請数は毎年増加している。 アンケートにおける緑の保全活動等は伸び悩んでいることから、取り組みの件数は増加しているものの、活動している人は固定化している状況が伺えるため、今後も筑後市緑づくり推進協議会を中心に緑化、花づくり活動の推進を継続し、緑の保全や育成に対するPRや啓発活動を行う。